



# 第12回愛媛形成外科研修会

## 抄 録 集



日 時 平成15年12月13日(土) 18時～

場 所 国立病院四国がんセンター  
管理棟 2階会議室  
TEL : 089-932-1111

当番世話人 愛媛大学医学部皮膚科(形成外科診療班)  
中岡 啓喜

## 第12回 愛媛形成外科研修会

### 研修会

1. 受付は当日17時30分より会場で行います。車でお越しの先生は、会場受付で無料駐車券をお配りします。
2. 参加費は1,000円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取りください。
4. 口演と討論時間は、一題あたり10分を予定しております。
5. 発表形式はWindows Power Point によるPCプレゼンテーションをお願い致します（当日はCD、MOにてご持参下さい）。なお、やむを得ない場合は、スライドによる発表も受け付けます。
6. 症例検討では、スライド、レントゲンフィルム、白板が使えます。

### 研修会総会

19時40分から会場で行います。

### 連絡先

愛媛県温泉郡重信町志津川

愛媛大学医学部皮膚科

(形成外科診療班)

中岡 啓喜

TEL 089-960-5350

FAX 089-960-5352

E-mail: hirok@m.ehime-u.ac.jp

# 研修会プログラム

## SECTION 1 1～3 (18:00～18:30)

座長 小林 一夫 先生

### 1. 当科における鼻骨骨折非観血的整復固定術の工夫

松山市民病院 形成外科

○一色恵美、手塚 敬

愛媛大学医学部 形成外科診療班

向井知子

1997年から現在まで、当科では72人に対して鼻骨骨折の整復を行った。この間に少しずつ、固定法などに改良を加えてきた。現在の我々の整復法につき紹介する。

### 2. 上顎骨骨折における治療指針の検討

愛媛県立中央病院 形成外科

○徳永和代、小林一夫、浜田裕一、槇野祥生

おがた形成外科

緒方茂寛

Le Fort型骨折を伴う上顎骨骨折では、急性期に顎動脈やその枝を損傷することで多量に出血することがあり、ベロックタンポンや口腔内パッキングによる止血が必要となる。そのため2～3週の時期をおいて観血的骨整復を行う際、再出血の可能性を懸念し整復が過少となり骨移植や骨切りなどの追加手術が必要となる。上顎骨骨折の症例を、反省を含めて供覧する。

### 3. リン酸カルシウム骨ペーストの使用法に関する検討

愛媛県立中央病院 形成外科

○榎野祥生、小林一夫、浜田裕一、徳永和代

おがた形成外科

緒方茂寛

リン酸カルシウム骨ペースト（バイオペックスTM）はペースト状に調整して使用するため、容易に形状の調節が可能であり、繊細な再建が必要とされる頭蓋顎顔面外科領域でも使用され、たいへん有用です。今回私達は、下眼瞼部に使用したリン酸カルシウム骨ペースト部が発赤、腫脹、瘻孔形成等を認めた症例を経験しました。リン酸カルシウム骨ペーストは、その使用法によっては不本意な結果を招く可能性がありますので報告します。

## SECTION 2 4～7 (18:30-19:10)

座長 河村 進 先生

### 4. オーストラリア・メルボルン市短期留学の経験

愛媛大学附属病院 形成外科診療班

○永松将吾、大塚 壽

宮本形成外科

宮本義洋、宮本博子

2003年5月に1ヶ月間オーストラリア・メルボルン市の複数の形成外科施設を訪問し、当地の形成外科医達と交流する機会を得た。オーストラリアの形成外科診療の実状、専門医試験、研修制度につき報告したい。

### 5. インプラントによる乳房再建の検討

国立病院四国がんセンター 形成外科

○前場 崇宏、河村 進

当科では1998年6月から現在までに、乳癌の乳房切除後の乳房再建に対して、インプラントによる乳房再建を65人、72乳房に行っている。インプラントも以前は生食バッグだったが、最近ではコヒーシブシリコンを使用している。これらについて、術式、合併症などを集計して報告する。

## 6. 顔面良性腫瘍に対するRhomboid-to-W techniqueの利用

宮本形成外科

○戸澤麻美、宮本義洋、宮本博子、岩垂鈴香、  
野田英貴

顔面良性腫瘍切除後の皮膚欠損に対して局所皮弁を用いるときは、術後瘢痕が短く、wrinkle lineに一致しているものが望ましい。単純縫縮では瘢痕が長くなるような皮膚欠損に対してRhomboid-to-W techniqueや、変形Rhomboid-to-W techniqueを用いて良好な結果を得ているので症例を供覧する。

## 7. マダニ刺症の一例

愛媛労災病院 形成外科

○黒住 望、松永真吉

マダニ刺症は、皮膚科領域での報告は見られるが、形成外科領域での報告は見あらず、われわれ形成外科医にとっては比較的馴染みが薄いものと思われる。今回、タネガタマダニ刺症の一例を経験したので症例を供覧したい。

## SECTION 3 8～10 (19:10-19:40)

座長 黒住 望 先生

### 8. 鉄粉によるhigh pressure injection injuryの1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科診療班

○光野乃祐、大塚 壽、中岡啓喜、森 秀樹、  
永松将吾、向井知子、笠井雅奈、  
松本由美子

69才男性、当科受診の5日前、鉄粉を高速で噴射する機械により、右顔面を受傷した。来院時、黒色異物（鉄粉と痂皮）が右顔面に密に付着していた。入院後、保存的処置により表層の鉄粉は痂皮と共に除去された。しかし色素沈着が著明で、皮内に鉄粉が残存したため、全身麻酔下に金ブラシ・炭酸ガスレーザーによる皮膚剥削術を施行した。鉄粉はほぼ除去されたが、色素沈着は残存した。現在、外来にて遮光、VitC内服等の保存的治療を続けている。

### 9. 頭部熱傷再建後頭蓋骨壊死の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科診療班

○笠井雅奈、大塚 壽、中岡啓喜、森 秀樹、  
永松将吾、向井知子、松本由美子、  
光野乃祐

87歳、女性。平成14年1月ストーブで顔面～頭部に熱傷受傷。前額～頭頂部で黒色変性した頭蓋骨を認めた。変性骨は除去せず、頭皮皮弁で被覆した。術後前額部に1×2cmの骨に達する潰瘍が残存したが、保存的にフォローした。平成15年9月より皮弁部に潰瘍、排膿を認めた。腐骨を可及的に剥削したが、術後7日目より再び潰瘍、排膿を認めるようになった。症例を供覧し、今後の治療方針に

ついて諸先生方のご意見を頂きたい。

## 10. レーザー照射後、遅発性に照射範囲を超えた熱傷潰瘍を 来した症例の検討

愛媛県立中央病院 形成外科

○浜田裕一、小林一夫、徳永和代、槇野祥生

中部徳洲会病院 形成外科

峯龍太郎

おがた形成外科

緒方茂寛

レーザー治療は放射熱傷の原理を利用した物質および細胞選択制の治療である。そのため伝導熱傷のような非選択的熱作用は少なく、不適切な照射パワーでなければ熱傷を起こさないとされている。しかし約2000例の自験例のうち照射3日後に照射範囲を超え熱傷潰瘍を来した症例が3例みられたので症例を検討し報告する。

愛媛形成外科研究会総会（19:40－ ）